

# 100年 先を読む

13

## 統計の裏側にある 真実を見抜くことが 商売の要諦

### ■ 国家の命運を左右する統計

本年初頭から政府の統計調査が不正に実施されていたことが問題になっている。政府が調査している統計は数百になるが、そのうち56は国家として重要な統計で、「国勢調査」を筆頭に「基幹統計」に指定されている。その中の「毎月勤労統計」で不正があったため全体を調査してみたところ、4割に相当する22の基幹統計に不備があったことが判明した。これらは政府の政策策定の根拠になるから、日本の将来を左右する問題と表現しても過言ではない。

ナポレオン・ボナパルトは「統計は事物の予算であり、予算なくしては公共の福祉もない」という言葉とともに、1800年に国立の統計調査機関を設立しているが、それ以前に国家の将来を左右する政策を統計数値によって立案した人物がいる。17世紀のイギリスで医師、学者、軍人として活躍し、「統計の始祖」ともされるウィリアム・ペティという人物である。死後の1690年に出版された『政治算術』が、統計が国家の盛衰を左右することを証明している。

当時、ヨーロッパではイギリスとフランスとオランダが覇権をめざしていた。当時、人口はフランス、イギリス、オランダの順番であったが、経済は反対にオランダが最大であった。統計資料を調査してみると、主要産業がフランスは農業、イギリスは工業、オランダは商業であり、商業が経済発展に貢献することが明瞭になった。そこでペ

ティはイギリスが重商主義に転換し、海外との貿易を推進することを提言し、世界を支配する大英帝国出現の契機を提供した。

反対に統計が杜撰で、極端な場合には意図して改竄されていたため国家が崩壊した事例も存在する。1991年末にソビエト連邦が崩壊する。直接の原因はアメリカとの軍拡競争に膨大な国家予算を投入して財政破綻になったこととされるが、経済関連の統計数字が意図して過大に集計され、それが間違った政策の根拠になったことも影響してい



た。現在の中国の混乱も米中貿易戦争の影響だけではなく、疑念のある経済統計も影響しているという推測がある。

### ■ 商売の要諦は 統計の裏側を見抜くこと

統計など商売に関係ない、もしくは、これまでさまざまな統計を参照して経営していると主張される方々が多数だと推察するが、説明したいことは、統計の利用について二点の課題である。第一は統計が全数調査であっても、数表の数字は現象の特定の側面を抽象したものでしかないことである。政府はアベノミクスの成果により有効求人倍率は上昇し、平均賃金も増大したと宣伝している。しかし、人々が希望しない仕事の求人が増加しても幸福ではないし、賃金の格差が拡大していれば不満な人々は増加している。

「眼光を紙背に透徹する」という言葉があるが、重要なことは数字の背後にある実態を透視することである。ある商品の人気が増して販売が順調であるとする。それは価格に比較して性能が優秀

であるのか、宣伝の効果が有効であるのか、時流に適合したのかななどを分析できなければ、さらに販売を拡大する方法や今後の企画には反映できない。それらは簡単に統計で判明する内容ではなく、別途の調査以上に、経験豊富な人間の判断が必要である。

第二は情報通信技術の革命によって、従来の統計とは異質の統計が出現したことである。GAF A（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）が世界の企業の時価総額の上位を独占しているのは、数字の背後にある個人を透視する魔法の手段を入手したことである。従来の統計手段では想像もできない桁違いの人数について、一人一人の性格、思想、友人関係などを収集し、それらを駆使して商売をしていることが、GAF Aをはじめとする情報企業の飛躍の秘密である。

ビッグデータの収集手段のない中小企業に対抗手段がないわけではない。前号でも紹介したカナダの英文学者M・マクルーハンが航空輸送会社の仕事はヒトを輸送することではなく、遠方のヒトとヒトがコミュニケーションする機会を提供することであると喝破している。商売はモノの販売やサービスの提供ではなく、企業と顧客、商品と顧客がコミュニケーションすることであると視点を転換すれば、統計数字の背後を透視した商売が可能になる。



東京大学名誉教授  
つきお よしお  
**月尾嘉男**  
Tsukio Yoshio

昭和17(1942)年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら私塾を主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。著書に「幸福実感社会への転進」(モラロジー研究所)、「転換日本」(東京大学出版会)ほか多数。